

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・
地域特別プロジェクト演習/特別プロジェクト研究演習
実施プロジェクト報告書

～プロジェクト一覧～

【地域協創演習】

1. 生活の中における情報可視化
2. カカシプロジェクト
3. ニョロニョロの知らない世界(長岡高専とのコラボ企画)
4. FM NAGAOKA メディアプロジェクト
5. Upcycle project 「The ニュー」
6. 越後みしま竹あかり街道 2023
7. SF プロトタイピングの実践
8. 地域おこし協力隊の準隊員になろう！
9. ラオス不発弾汚染地域における持続可能な商品開発を目指した
Champayayam project
10. 長岡まちづくりタウン誌プロジェクト:街ルポブック制作
11. 楽天寄付講座:10年後の長岡を考え、仮説検証する
12. いいことをデザインする「かいしゃ」プロジェクト(4 大学 1 高専コラボ企画)
13. 旅館再生プロジェクト
14. アウトドア商品開発プロジェクト
15. アーティスト イン レジデンス アーティスト制作アシスト
16. DINOS CORPORATION 商品開発プロジェクト

【ボランティア実習】

1. フェニックス花火ボランティア

【地域特別プロジェクト演習 I】

1. 壊して気づくイノベーション
2. 存在意義をデザインするパーパス・ブランディング&アクション
3. アーティスト インレジデンス アーティスト制作アシスト

【地域特別プロジェクト演習 I /特別プロジェクト研究演習(博士(後期)課程)】

1. Arts-Based Research の実践

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習	ボランティア実習	地域特別プロジェクト演習					
プロジェクト名	生活の中における情報可視化							
期間（西暦）	2023年5月17日～2023年10月17日							
担当教員	主担当 真壁 友、平原 真							
参加学生数	2学年	1人	3学年	1人	4学年	人	その他	人
履修者数	2人							
達成目標	実働するモックアップ作成。デザイン提案。							
授業の概要及びテーマ	日本精機の持つセンサー技術、情報可視化技術を活かした日用品の提案をしてもらう。何を測定し、何を見えるようにするのか、それによって生活がどのように便利に（もしくは楽しく）なるのかを考える。 プレゼンテーションでは実働するモックアップを作成することを目標とする。							
実施スケジュール	5月 導入ワークショップ 6月 M5Stack ワークショップ 7月 アイデアディスカッション 9/20 ワークショップ、工場見学（エヌエスアドバンテック株式会社 小千谷工場） 10月 発表会							
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください	<p>学生2名+日本精機のエンジニア3名の参加により授業を実施した。</p> <p>日本精機の会社紹介、技術紹介を行ってもらい、その後に情報の可視化についてのレクチャー、実装するための技術として M5 Stack の導入ワークショップを行った。</p> <p>その後、プロトタイプ制作などを行い、発表を行った。</p> <p>また 9/20 にエヌエスアドバンテック小千谷工場で工場見学を行った。工場見学では射出成形、特殊印刷についての工程を学び、大量生産品のデザインについての知識を得ることができた。</p>							
	 							



所感、今後の展望など

今回は参加した学生が2名（プロダクトデザイン学科）、そこに日本精機の若手エンジニア3名が加わり合計5名での演習になった。

学生人数よりも社会人参加が多くなり当初考えていたバランスとは異なる授業になった。その中で可視化について、プロトタイプに使うM5 Stackについての演習を行った。

学生数が少ない中でも参加学生は熱心に取り組んでくれた。

次年度ではTxD領域の学生にも声をかけて学生の参加人数を増やしたい。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習	ボランティア実習	地域特別プロジェクト演習
プロジェクト名	カカシプロジェクト		
期 間 (西 暦)	2023 年 4 月 29 日 ~ 2023 年 10 月 15 日		
担 当 教 員	主担当 境野広志		
参 加 学 生 数	2 学年	11 人	3 学年 16 人 4 学年 3 人 その他
履 修 者 数	30 人		
達 成 目 標	創造性の向上と人格の形成		
授 業 の 概 要 及 び テ ー マ	農村、棚田の景観を向上させる独創的な案山子を創作し、実際の地に設置することで、地域の活性化や学生の社会性を涵養する。活動の過程では創作だけでなく地域の方々と深く交流し、農作業や農村維持作業への参加も行う。また存続が危惧されている中山間地の農業やコミュニティについての提案を行う。		
実施スケジュール	4 月 ガイダンス、現地調査 5 月 カカシ作成 6 月 カカシ設置、現地交流 7 月 農業体験、現地交流 10 月 カカシ撤収、現地交流		
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください	<p>当初のスケジュール通り実施した。現地設置時や撤収時には新潟日報、日本農業新聞、栃尾タイムズなどの取材もあった。農業体験ではソバの種まき、刈取りなども行い、希望の学生にはソバ打ちなども体験させた。また薪割りや椎茸のコマ打ちなど普段はできない体験なども多く実施し、地域住民にとっても良い交流となった。</p> <p>4月の現地見学</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

今年の案山子



農業体験や地域交流



所感、今後の展望など

比礼の棚田がカカシを特徴とした棚田として農林省の「つなぐ棚田遺産」に認定されたこともあり、地元でもこの活動へ更に積極的な支援をして頂いており、バージョンアップしつつ、長く継続していきたい。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習							
プロジェクト名	ニョロニョロの知らない世界（長岡高専とのコラボ企画）							
期間（西暦）	2023年5月1日～2023年10月31日							
担当教員	主担当 板垣順平，森本康平							
参加学生数	2学年	7人	3学年	4人	4学年	3人	その他	人
履修者数	14人							
達成目標	<p>第一段階：「ミミズコンポストの技術」と「デザイン思考」にかかる基本的な知識やノウハウを学ぶとともに、プロジェクト実施に向けて自ら課題を設定する。</p> <p>第二段階：実際にプロジェクトを立ち上げて、ミミズコンポストを愛することができるようなアイデアを考え、そのプロトタイプ制作や試行、成果をイベントで発表する。</p>							
授業の概要及びテーマ	<p>このプロジェクトでは、長岡工業高等専門学校との混成チームによって「ミミズコンポストがある新しいライフスタイルの提案」をテーマに、ミミズコンポストのリデザインや、ミミズやコンポストに興味を持てる仕掛けやイベント等の提案など、さまざまな視点からミミズコンポストを愛することにつながるようなアイデアを自分たちで自由に考えます。また、10月に実施されるHAKKO tripで成果物の発表やアイデアの試行など、単なる提案で終わることなく、実際に取り組むことまでを目指します。</p>							
実施スケジュール	<p>5月 履修者決定，オリエンテーション</p> <p>7月 顔合わせ，事前レクチャー</p> <p>8月 リサーチ結果の共有，プロトタイプ作成，評価，検証，金融リテラシー講座，リーンキャンバス作成講座，成果発表</p> <p>10月 HAKKO tripにて成果物の展示</p>							
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください	<p>当該プロジェクトでは、長岡工業高等専門学校と連携して、ミミズがある新しいライフスタイルの提案をテーマに、ミミズ粉末の普及やミミズコンポストのシェアリングサービスの新しいアイデアの提案を通して、SDGsへの貢献やイノベーションを創出できる起業家マインドを育成することを目的に実施しました。</p> <p>具体的には、造形大14名、高専13名の学生が混成チームを組み、デザイン思考や人間中心デザインの視点をもとに、日常生活の中から潜在ニーズや問題を見つけ出し、その解決につながるプロトタイプ制作や評価、検証などを繰り返しながら、既存の概念を払拭したプロダクトやサービスの提案などを行いました。</p> <p>また、8月に実施した集中講義では、三井住友海上火災保険の証券アナリストから経営者に役立つ金融リテラシー講座、KDDIからアイデアを社会実装に繋げるために有効なリーンキャンバスモデルの作成講座なども実施するなど、ア</p>							

アイデアの提案だけでなく、ビジネスモデルとしての展開までを視野に入れながらそれぞれのグループが最終的なアイデアをまとめた。



所感、今後の展望など

今年度で第3回目となる当該プロジェクトは、初年度と同様に長岡造形大学と長岡高専の学生がそれぞれの専門性を生かしながらグループワークを実施した。また、金融リテラシー講座や社会実装講座など、アイデアをビジネスモデルとして展開するために必要なレクチャーなど、通常の講義では知ることができない講義を受けることができた。

一方で、3年目の実施を通して、集中講義式による実施のメリットとデメリットも明らかになってきたことから、次年度は、授業の実施方法や実施期間の見直しを図りたい。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習
プロジェクト名	FM RADIO メディアプロジェクト
期 間 (西 暦)	2023 年 4 月 25 日 ~ 2023 年 12 月 28 日 毎週火曜日放課後
担 当 教 員	主担当 池田享史
参 加 学 生 数	2 学年 13 人 3 学年 3 人 4 学年 3 人 その他 人
履 修 者 数	19 人
達 成 目 標	FM 長岡さんとの社会連携によるラジオメディアプロジェクト。長岡の魅力ある「音の風景」を発見し OA する。企画・編集を各自で行い最終的に完パケ納品まで行う。音メディアに求められる役割や価値・表現などを学ぶ。
授 業 の 概 要 及 び テ ー マ	長岡造形大学発、学生が創るクラフトラジオ（地域協創演習）。FM ながおか 80.7Mhz にて、10/7（土）から 2024 年 2/10 までの半年間（21:10~25）、毎週土曜日に配信。インターネットの普及により「ポッドキャスト」や「ライブ、オンデマンド配信」による音声メディア表現が広がっている現在、RADIO CAMPUS では、音メディアとの親和性が高い学生たち 19 名が新しい感性でラジオ番組を制作した。
実施スケジュール	4/25：初回オリエンテーション → MC・広報などの役割分担 5 月：マーケティングシート（企画）、制作昨年度の学生からのレクチャー有 佐藤さんチェック → 企画決定、制作開始 10 月：夏休みも含めて 制作期間 10 月頭に全納品 10/12 元 NHK アナウンサー 石澤典夫さん 講演 勉強会 放送スケジュール：10/7 初回放送 OA 開始 → 2024/2/10 OA 終了
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください。	エフ長でお馴染みの看板パーソナリティー佐藤央さんがプロの所作指導として来校（計 6 回）。学生の企画や内容を監修してもらい、OA に関しては最終編集作業を行っていただきました。また、10 月には現役のアナウンサーでもある石澤典夫さんに来校していただき、講演や勉強会を行った。 番組のテーマは「長岡の音の風景」。市内のさまざまなスポットに出向き各自で収録を行った。各地の幅広い音源が集まった事もあり FM 長岡さんから視聴者からの反応が良いとの報告もあった。今回は全ての放送で MC 役の 5 名がローテーション参加した。昨年のテーマよりも内容がシンプルだったので、番組の企画力が試された。ネット視聴できるようにアーカイブを「Voicy」（ポッドキャスト アプリ）にて格納している。
所感、今後の展望 など	編集作業を簡単にする事で制作時間の短縮ができ、学生の編集ハードルが下がった。番組実装は客観的な視点を考えるきっかけづくりにも繋がり、個性的な音源となった。反省点としては、番組のプロモーションに時間を割く事が出来なかった為、認知度不足が問題点である。SNSへの展開なども視野に入れて番組制作を続けたい。

令和4(2022)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習	ボランティア実習	地域特別プロジェクト演習					
プロジェクト名	Upcycle project 「The ニュー」							
期 間 (西 暦)	2023年4月24日 ~ 2023年12月14日							
担 当 教 員	主担当 池田享史 副担当 中村和宏							
参 加 学 生 数	2 学年	13 人	3 学年	13	4 学年	4 人	その他	人
履 修 者 数	30 人							
達 成 目 標	持続可能な開発目標である SDGs を学び、アップサイクルによるデザイン制作・販売・運用までの循環型エコ・アップサイクルを経験し、社会実装（長岡市ふるさと納税返礼品）を行う事で社会と学生のデザインを繋げていく。							
授 業 の 概 要 及 び テ ー マ	長岡造形大の学生による長岡の為のガラスアップサイクル計画第二弾となる。新潟県内で集められたリサイクル瓶（日本酒 720ml）の上部をカットし、絵付け・加工を行う事で、瓶は新しいガラスタンブラーとして生まれ変わる。完成した商品の箱にスリーブ上のデザインをあしらい、長岡市の「ふるさと納税返礼品」として販売される。（web：ふるさとチョイス）							
実施スケジュール	4/27 ガイダンス・オリエンテーション 4/27、5/11、5/18、5/25、6/1、6/15：SDGs 及び Up cycle の講義 6/8 デザインレクチャー 6/22 デザイン画制作 7/1 ガラス絵付け、焼き付け実習（ガラス完成） 7/27 「長岡未来づくり勉強会」 10/4 パッケージデザインの説明会 → 自習にて PKG 制作 12/14 PKG カット組み立て 完成							
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください。	<p>プロジェクト第二弾としての制作だった為、授業内容は比較的順調に進行した。アナログ作業である絵付けではアクリル顔料の不慣れさが出てしまった、しかし、パッケージデザインに関するパソコンでの作業はとてもスムーズだった。昨年とは異なり、Z 世代の特徴を感じた。なかでも、焼き付け実習は初めての体験という事もあり、美術・工芸学科の学生のサポートもかりながら上手く進行できた。学生の関心度も高く、1 日があっという間に過ぎるくらい楽しんで制作していた。</p>							
所感、今後の展望 など	<p>二回目の実習であった為、クオリティーはやや上がったが、その後のプロモーションに関してはまだ課題が多い内容である。人数制限をかけたので昨年よりも進行がスムーズに行えた。</p> <p>また、昨年度の在庫も残っており、本年度の販売数が伸び悩んでいる為、通常 1 個販売を行っていたものを、2 個セットで販売するように変更中。</p>							

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習	ボランティア実習	地域特別プロジェクト演習
プロジェクト名	越後みしま竹あかり街道		
期 間 (西 暦)	2023 年 6 月 11 日 ~ 2023 年 10 月 29 日		
担 当 教 員	主担当 北雄介 / 羽原康成		
参 加 学 生 数	2 学年	22 人	3 学年 10 人 4 学年 8 人 その他 人
履 修 者 数	40 人		
達 成 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを成功させること。 ・自然の材料を使った原寸大のものづくり力、チームでのプロジェクトを動かすマネジメント力や協調性を身につけること。 		
授 業 の 概 要 及 び テ ー マ	三島ライトアップ実行員会が主催し、長岡造形大学が共催するイベント「越後みしま竹あかり街道」の、1つの会場の空間演出を担うことで、地域貢献を行なう。空間演出のデザインだけではなく、竹の伐採や加工、設置、片付けまでを一貫して体験する。		
実施スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 6/11 (日) 終日: キックオフ (現地視察と加工体験) ✓ 6/21 (水)・7/ 5 (水) 放課後: デザイン会議 ✓ 7 月~8 月: 班に分かれて活動 (任意参加) ✓ 9/ 4 (日) 終日: 伐採 ✓ 9/18 (日)・9/24 (土) 終日: 加工 ✓ 10/21 (土) 午前: 大物の設営 ✓ 10/28 (土) 終日: イベント当日 ✓ 10/29 (日) 午前: 片付け 		
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください	<p>学科や学年をまたぐ 40 名の学生が力を合わせ、地元の方々とも協力しながら、三島の街道沿いの「長照寺駐車場」における空間演出や、街道全体を対象としたイベント企画などを行なった。</p> <p>●キックオフ～デザイン会議</p> <p>キックオフでは、現地で三島のライトアップ実行委員会メンバーと顔合わせをし、地域を案内してもらった後に、竹の加工を体験することで、プロジェクトへの理解を深めた。デザイン会議では 6 グループに分かれて活動し、200 以上のアイデアを生み出した。それらを幹事学生がまとめ、「竹星人の住む宇宙都市」を全体コンセプトとして、制作に臨むことになった。</p>		
			

●班ごとの自主活動

「巨大樹」「三脚」「小物」「イベント」の4班に分かれ、自主参加で、試作を繰り返しながらそれぞれの担当部分を詰めていった。

●伐採～加工～事前設営

伐採は暑い日であったが、地元の方と協力しながら、4m×約250本分の竹を切り出した。加工は上記4グループで分担して行なった。そして「巨大樹」「三脚」については、1週間前に有志メンバーで現地入りし、組み立てを行なった。



●イベント当日～片付け

迎えた当日には、まず朝から現地のボランティアや中学生などと協力しながら、街道全体に竹を設置していった。そして16時の点灯式を合図に、火を灯して回った。当日は天気予報が以前から悪く、特に午前中はかなり雨が降り冷え込んだが、点灯以降は奇跡的に雨が上がり、約1万人の来場で盛り上がった。各班の成果は…、

・「巨大樹」班は、高さ5mほどにもなる鼓状のオブジェを生み出した。竹の重量や固定方法、運搬方法などに苦慮したが、CGのスキルなども使いながら実現可能で美しいデザインに辿り着いた。投光器で内側から照らされた巨大樹の存在感は、竹あかり街道全体の中でも圧巻のものであった。

・「三脚」班は、竹3本を紐で縛ることで組み上がる三脚を会場内全体に配置し、宇宙都市の世界観を作り上げ、来場者の動線の整理にも貢献した。三脚自体にもキャンドルを仕込み、布を使ったり、小物班と連携したりして、多様な光景観を生み出した。

・「小物」班は、以前本学学生が発明したという「ニコチャン」のオブジェを応用し、竹の星に住む、さまざまな表情の「ニコチャン星人」を生み出し、会場を彩った。スプレーで着色した竹を集合させ生み出した大きな花は、巨大樹と共に写真映えするスポットにもなった。

・「イベント」班は、街道沿い6箇所「星のかけら」を配置し、竹ランタンを持ちながらそれを集めて歩くという企画を実施した。本学で担当した敷地だけではなく、竹あかり街道全体を楽しめる企画であり、子どもを中心とした来場者にも、実行委員会にも喜ばれるものとなった。パンフレットとランタンは販売し、予定数の200セットを完売した。

翌日の片付けは、また悪天候となったが、作品との別れを惜しみながら、午前中でほぼ作業を終えた。



所感、今後の展望など

天候が心配されたが多くのの方が会場に詰めかけ、学生たちの力作に驚きの声をあげてくださった。例年そうであるが、本学学生の作品は立体的で迫力があり、街歩きイベントなどの工夫も楽しく、会場の中でも異彩を放つ存在である。また実現までのプロセスにおいても、幹事や班のリーダーの学生を中心とした、数々の試作を通した粘り強い検討は見事であった。

学生たちの声を聞くと、かけた労力は大きかったが、かなり満足度の高いプロジェクトとなったようである。地域貢献ができたこと、学年や学科を越えた密な協働ができたことなどがその理由のようだ。ただし高い負荷や、情報共有の不足などには学生からの改善の声も上がり、今後の検討材料としたい。また例年雨の心配があるため、開催時期の変更についても、実行委員会とともに検討を進める予定である。

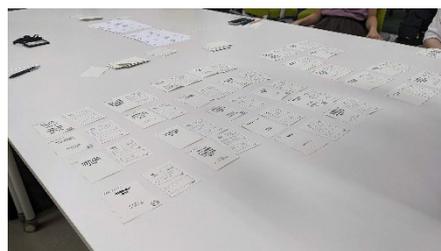
令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習	ボランティア実習	地域特別プロジェクト演習
プロジェクト名	SF プロトタイピングの実践		
期 間 (西 暦)	2023 年 5 月 18 日 ~ 2023 年 12 月 17 日		
担 当 教 員	主担当 森本康平		
参 加 学 生 数	2 学年	2 人	3 学年 2 人 4 学年 人 その他 人
履 修 者 数	4 人		
達 成 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノロジー、社会、人文学領域の研究を通して、未来の可能性や危険性を想像し、社会が考えるべき「問い」としてまとめることができる。 ・見出した「問い」を、多様なプロトタイプ（小説、グラフィック、映像など）を通して提示することができる。 ・プロトタイプをもとに、他者と議論することができる。 		
授 業 の 概 要 及 び テ ー マ	<p>この演習では SF プロトタイピングの手法に則り、テクノロジー、社会、人文学領域の研究動向をリサーチした上で、現在の延長線上にない未来シナリオを想像する。そして、プロトタイプの制作、展示を通して、未来の可能性やリスク、及びバックキャストにより見出される現在の問題について、議論の輪を広げることを目指す。プロトタイプは、概要を盛り込んだショートストーリーを軸に、長編小説、イラスト、プロダクト、映像等、多様なフォーマットを選択できるものとする。成果物は冊子等の形態でアーカイブ化するとともに、制作物の展示及び最終発表をミライエ長岡で実施する予定である。また、リサーチ及び成果発表のプロセスにおいて、東日本電信電話株式会社新潟支店の方々との連携を行う。</p>		
実施スケジュール	<p>DAY1 5/18(木) ガイダンス</p> <p>DAY2 5/25(木) インプットワーク (ダブルバインドゲーム)</p> <p>DAY3 6/8(木) インプットワーク (社会/価値観)</p> <p>DAY4 6/22(木) インプットワーク (NTT 東日本社によるレクチャー)</p> <p>DAY5 7/6(木) シナリオ制作スタート (アイデア出しワーク)</p> <p>DAY6 7/13(木) シナリオ制作/ディスカッション</p> <p>DAY7 9/21(木) シナリオ進捗確認/ディスカッション/ NTT 東日本ショールーム視察</p> <p>DAY8 10/5(木) アウトプット制作</p> <p>DAY9 10/19(木) アウトプット制作 (自由参加)</p> <p>DAY10 11/2(木) アウトプット制作 (自由参加)</p> <p>DAY11 11/23(木) 冊子制作</p> <p>DAY12 12/17(日) プレゼンテーション/ディスカッション (公開)</p> <p>12/14~12/22 展示イベント@ミライエ 5F</p>		

実施状況及び成果

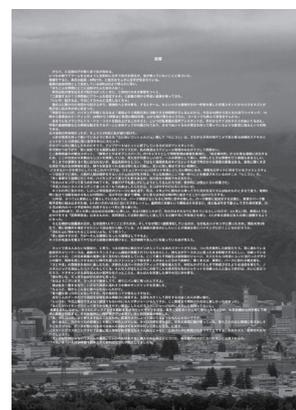
*実施の写真を掲載ください

昨年に続く 2 回目の開催となった本年度のプロジェクトは、5 名の学生（学部生 4 名、大学院生 1 名 ex 地域特別プロジェクト演習）と 2 名のサポートスタッフ（博士課程学生、事務局職員）から構成されるプロジェクトチームにより実施された。本年度は、東日本電信電話株式会社新潟支店の方々に授業協力としてご参加いただき、同社が展開する最新のテクノロジーに関するレクチャーの開催や制作途中のシナリオに対する講評を行っていただいた。また 9 月には、ミライエ長岡内に開設された同社の協創スペース「NTT 東日本スマートイノベーションラボ-NESTnagaoka-」を視察し、未来のテクノロジーに関する知見を深めた。



参加者は「2053 年のコミュニケーション」というテーマからイメージを膨らませ、将来の可能性や問題点を内包するショートストーリーを制作した。さらに、ストーリーを象徴するイラスト、写真、CG、モックアップを制作し、未来の世界を、より豊かに表現した。成果物は、SF マガジン「2053」としてまとめ、冊子を制作するとともに、以下の URL にて公開している。（2024 年 2 時点）

[\(https://fusionlab.ex-nid.jp/post/207702/1078/\)](https://fusionlab.ex-nid.jp/post/207702/1078/)



2023 年 12 月 13 日から 22 日まで、冊子の内容をベースとした展示会をミライエ 5F にて開催。また、展示期間中の 12 月 17 日に、ミライエステップにて公開ディスカッションを開催した。プロジェクトメンバーのほか、一般の参加者を変え、各シナリオが内包する問いについて意見交換を行った。



所感、今後の展望など

本年度は東日本電信電話株式会社新潟支店の方々にショールームを案内していただいた。テクノロジーについて、インターネットや文献で調べるだけでなく、実際の映像やプロダクト、そしてそれらの背後にある機器を見ることで、より具体的なシーンの想像に繋がったのではないかと考える。また、ミライエでの公開ディスカッションを通して、他者を問いに巻き込めたことが本年度の大きな成果であると考えている。イベントには多様な年代の方が参加されていたが、前提となる知識量に左右されることなくフラットに議論することができ、センシティブな話題でも、本音のやり取りができたように思う。これらは、エンターテインメント要素を含む架空のストーリーを媒介としたからこそ可能となったのではないかと考える。このような SF プロトタイピングならではの議論が誕生する瞬間を今後も増やしていきたいと考える。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習							
プロジェクト名	地域おこし協力隊の準隊員になろう！							
期間（西暦）	2023年5月1日～2024年1月30日							
担当教員	主担当 板垣順平，森本康平							
参加学生数	2学年	5人	3学年	2人	4学年	人	その他	人
履修者数	7人							
達成目標	<p>第一段階：「半学半域型」の地域おこし協力隊員が実施するイベントやワークショップ等に参画しながら，プロジェクトの組み立てに必要なノウハウやスキルを身につける。</p> <p>第二段階：「半学半域型」の地域おこし協力隊員と一緒に自らプロジェクトを立ち上げて実際にそのプロジェクトを実施する。（活動例：長岡の地域資源を活用したイベント，地域食材を用いたコミュニティカフェの運営など）</p>							
授業の概要及びテーマ	<p>地方創生の担い手の一つに，地域おこし協力隊制度がある。この制度は都市部に住む若者が地方都市や中山間地域に移り住み，地域に根差した活動や起業的アクションを通じて地域課題の解決や移住促進につなげるものである。</p> <p>このプロジェクトでは，長岡市政策企画課に所属する「半学半域型」の地域おこし協力隊員の活動に参画しながら，地域課題の解決に必要なスキルやノウハウを学ぶとともに，自身ができる地域課題の解決方法を見つけてチャレンジする。</p>							
実施スケジュール	<p>5月 授業ガイダンス，参画する隊員のプロジェクトの選択</p> <p>6-12月 各隊員の活動や取り組みに参加</p> <p>10月-1月 自ら企画，提案した活動を隊員らと一緒に実施</p>							
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください	<p>当該プロジェクトは，長岡市政策企画課に所属する地域おこし協力隊員の活動に学生らが参加し，地域おこし協力隊の存在目的や，隊員によって異なる地域課題の解決に向けた取り組みなどに対する理解を深めた。</p> <p>今年度のプロジェクトでは，隊員らが取り組む地域資源を題材としたおもちゃの制作ワークショップやコミュニティカフェ，小学生向けの寺子屋塾，ポートレート写真撮影など様々な活動に参画しながら，イベント等の企画から実施に至るまでの知見やノウハウを学んだ。これらの経験を生かして，自主的なコミュニティカフェの企画・実施や HAKKO trip での地域の魅力発信の取り組みなどを隊員らと一緒に実施した。</p> <p>履修者からは「イベントなどの企画から実施に至るまでのプロセスを実践的に学ぶことができてよかった」，「自分自身がチャレンジしたいことと地域課題の解決に繋げる方法を学ぶことができた」などの意見があり，自身がチャレンジしたいことと地域課題の解決の接続にかかる方法についての理解を深めることができた。</p>							



所感、今後の展望など

当該プロジェクトでは、地域おこし協力隊員の活動や地域活動団体のイベントなどに参画できたことで、自身の得意とすることややりたいことを実施しながら地域の課題解決を目指す方法やイベントの企画・実施に必要な知見などを学修することができた。

特に、今年度は隊員らの活動にただ参画するだけではなく、履修者自らイベントや取り組みを企画し、それを実践する機会が多かった。

そのため、地域おこし協力隊の活動を体験するだけではなく、イベント等の企画実施に必要な知見を深めることにもつながった。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習
プロジェクト名	ラオス不発弾汚染地域における持続可能な商品開発を目指した Champayayam project
期間（西暦）	2023年5月15日 ～ 2023年10月15日
担当教員	主担当 板垣順平
参加学生数	2学年 2人 3学年 2人 4学年 人 その他 人
履修者数	4人
達成目標	<p>第一段階：活動対象集落においてフィールドワークを行いながら不発弾汚染や森林伐採などの社会問題の現状を理解し、国際協力におけるデザインの活用方法について考えをまとめる。</p> <p>第二段階：ラオスの地域資源を活用した観光客向けの観光商品や商品の広報ツール等を提案し、現地で実施予定の展示会にて展示する。</p>
授業の概要及びテーマ	<p>東南アジアに位置するラオス人民民主共和国はアジア最貧国の一つとされ、特に北部にあるシェンクアン県は、ベトナム戦争時代の不発弾汚染による農地不足から、人々の平均年収は極めて低く、生活水準は最低レベルにある。一方で、当該地域にはハチミツや伝統的な手織物、茶葉などの資源があるほか、2019年にはジャール平原が世界遺産に登録されるなど、観光客の増加とインフラの発展が期待されている。そこで、このプロジェクトでは、これらの資源を活用した観光商品の開発とデザインプロセスの普及活動を行なっている Champayayam project に参画し、活動対象集落でのフィールドワークや現地政府機関関係者や集落住民との交流を通して、持続可能な観光商品の開発に取り組んだ。</p>
実施スケジュール	<p>5月 オリエンテーション</p> <p>6月 テーマ、課題設定</p> <p>7月 自主制作</p> <p>8月 渡航前のオリエンテーション、渡航準備</p> <p>9月 現地にてフィールドワークおよび展示会の開催</p> <p>10月 振り返りおよびまとめ</p>
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください	<p>今回の演習では、履修者4名が定期的に Champayayam project の現地スタッフや現地で当該プロジェクトのとりまとめをおこなう大学院生の三井さんと定期的にオンラインで打ち合わせ等を行いながら、現地で実施する展示会の準備等を進めるとともに、履修者各自でそれぞれチャレンジしたいことや取り組みたいことを決定するとともにその準備を進めてきた。9月には履修者4名がラオスに渡航し、当該プロジェクトの展示会に参画し、履修者が発案したワークショップの実施や観光商品のパッケージの展示、展示会の装飾や広報のデザイン等を実施した。また、展示会期間中には、当該プロジェクトの活動対象集落の住民や</p>

展示会に来訪した約 100 名の観光客や政府関係者に対してヒアリング等を行いながら、各自の提案内容に対するフィードバックを得た。



所感、今後の展望
など

今回の演習では、開発途上国における国際協力の場面において、デザインの可能性を理解することを目的として、Champayayam projectに参画した。特に、現地で実施した展示会では、実際に履修者らの企画を実施し、展示会の来訪客からフィードバックを得ることで、商品開発や商品のプロモーション等を行う際に必要な知見やノウハウを学ぶことにつながったのではないかと考える。実際に、渡航後の振り返りでは、「貧困や森林破壊など、多くの問題を抱える開発途上国に実際に行けたことで、国際協力の難しさを知ることができた」、「自分がデザインしたパッケージデザインに対して直接現地の人たちの反応を見ることができたことがよかった」などの意見もあった。

令和5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習	ボランティア実習	地域特別プロジェクト演習
プロジェクト名	長岡まちづくりタウン誌プロジェクト：街ルポブック制作		
期間（西暦）	2023年4月26日～2023年12月28日		
担当教員	主担当 池田享史		
参加学生数	2学年	24人	3学年 21人 4学年 5人 その他 人
履修者数	50人		
達成目標	自らの取材を元に「長岡の魅力」や「自身のテーマ」を文章とイラストで構成する。アポ→取材→定着を経験する事でリアルなものづくりへと昇華させる。完成後、作品を複数の冊子にまとめて各月で発行し配布する。（2024年発行予定）		
授業の概要及びテーマ	長岡市のまちづくりを促進させる「タウン誌」の制作。取材した内容を文章で詳しく表現し自身のイラストで内容を視覚化する。ルポライティングを通じ、漫画のコンテンツ要素やことばの伝え方などのデザインワークを学ぶ。特別ゲスト講師として「なとみ みわ」氏を迎え、ルポライティングに欠かせない取材力やイラストレーションを指導してもらいます。		
実施スケジュール	4/26：初回オリエンテーション → MC・広報などの役割分担 5月：プランニングシート制作（企画）・なとみ さん講義 6月：ラフ制作開始 個別相談有 7月：本番制作開始 中間講評 8月：本番制作納品 9月：校閲、修正依頼、修正納品 11月：最終確認 → 2024年2月（冊子まとめ・印刷開始）		
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください。	当初の募集人数より、多くの学生が参加した事により、取材エリアやお店の選択（1人1箇所）を決める事が難しかった。反面、幅広い企画が生まれ、制作に関して学生同士の絆が強くなり良い方向へと進んだ。 なとみさんの5回の講義・原稿チェックは学生にとって業界を知る上でリアルな学びに繋がった。 7月にはラフで描いた作品を持ち寄り中間発表をした。その際、長岡技術大学の学生に意見交換をもらう事ができた。（長岡青年会議所協力） 校閲や修正に関して学生数が多い為に非常に苦戦した。		
所感、今後の展望など	各自企画書を作成し実行した結果、アポ取りや取材に関してとてもスムーズな流ができた。特に漫画やアニメが好き学生は表現レベルの高い作品が完成している。学生のデジタルスキルが高くイラストの9割がデジタル表現だった。 2年生が半数程いた為、デザインの知識が低く、レイアウトがうまくいかずに編集がハードであった。また、長岡市の観光課の方の意見により年内中に市役所のHPなどで公開する予定。（2024） 冊子印刷物に関して当初の受講人数を超えてしまった為、検討中である。		

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習							
プロジェクト名	いいことをデザインする「かいしゃ」プロジェクト(powered by 楽天) (4 大学 1 高専コラボ企画)							
期間 (西暦)	2023 年 8 月 21 日 ~ 2023 年 8 月 25 日 ミライエで集中グループワーク (2023 年 9, 10, 11, 12 月 メンバー+メンターでブラッシュアップ 2023 年 12 月 21 日 楽天未来デザインコンテスト) (カッコ内は自主参加)							
担当教員	主担当 渡邊、金澤							
参加学生数	2 学年	6 人	3 学年	3 人	4 学年	人	その他	1 人
履修者数	10 人							
達成目標	長岡地域にある起業支援ツールおよび起業マインドのある同世代とコネク トし、長岡のイノベーションデザインのエコシステムの基層を形成する。							
授業の概要 及びテーマ	<p>起業プラン、ビジネスプランを練り実際に外部のビジコンでピッチすることで 若者やイノベーションデザインの起業プロセスの擬似体験をする。</p> <p>NaDeC BASE で実施するアントレプレナーシップ育成プログラムに前期参加す る。8 月に集中ワークショップを行い、ビジネスプランを作成する。NID 生チ ームオンリーでも長岡大、技大、高専のメンバーと混成チーム何れも OK。</p> <p>この成果を 9 月に NaDeC 構想推進コンソーシアムが開催予定の Matching HUB 長岡 (仮) の M-BIP (Matching HUB Business Idea Plan Competition) でピ ッチを行う。</p> <p>なお、授業としては 9 月までだが、12 月に楽天がスポンサーのビジコンにさら にブラッシュアップした成果を発表し、2024 年 4 月以降リアルにプロジェクト のローンチを目指す。</p>							
実施スケジュール	<p>8 月 ビジネスプラン作成ワークショップ</p> <p>9 月 NaDeC presents Matching HUB Nagaoka2023 M-BIP 9/24</p> <p>10 月</p> <p>11 月</p> <p>12 月 長岡未来デザインコンテスト</p>							

実施状況及び成果

*実施の写真を掲載ください



楽天の創業メンバー6人のうちの1人である楽天 CWO 小林正忠さんのレクチャー (8/21)



所感、今後の展望など

今後ともNaDeC（市内4大学1高専、長岡市、商工会議所）の枠組みを活用しオープンイノベーション的環境からビジネスアイデアのコンペ出場や実際の起業に結び付くことが期待される。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習
プロジェクト名	いいことをデザインする「かいしゃ」プロジェクト
期 間 (西 暦)	2023年4月21日 ~ 2023年9月23日
担 当 教 員	主担当 渡邊、徳久、藪内、北
参 加 学 生 数	2学年 6人 3学年 1人 4学年 人 その他 人
履 修 者 数	7人
達 成 目 標	長岡地域にある起業支援ツールおよび起業マインドのある同世代とコネク し、長岡のイノベーションデザインのエコシステムの基層を形成する
授 業 の 概 要 及 び テ ー マ	起業プラン、ビジネスプランを練り実際に外部のビジコンでピッチすることで 若者やイノベーションデザインの起業プロセスの擬似体験をする。
実施スケジュール	4月 ガイダンス リーンローンチか起業家塾か、両方かを選択 5月 リーンローンチパッド エントリー 6月 リーンローンチパッド 7月 リーンローンチパッド 8月 リーンローンチパッド 起業家塾 (4日間集中) 9月 NaDeC presents Matching HUB Nagaoka2023 M-BIP 9/23
実施状況及び成果 *実施の写真を掲 載ください	
所感、今後の展望 など	今後ともNaDeC(市内4大学1高専、長岡市、商工会議所)の枠組みを活用しオー プンイノベーション的環境からビジネスアイデアのコンペ出場や実際の起業 に結び付くことが期待される。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習	ボランティア実習	地域特別プロジェクト演習					
プロジェクト名	旅館再生プロジェクト							
期間（西暦）	2023年5月8日～2024年2月21日							
担当教員	主担当：吉川賢一郎、板垣順平							
参加学生数	2学年	5人	3学年	3人	4学年	人	その他	人
履修者数	8人							
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・この実践的なプロジェクトを最後まで諦めず積極的に参加することができる ・問題を発見し、明確に本質を言語化・視覚化することができる ・プロジェクトを通して、地域の様々な人たちと積極的に交流し繋がることのできる ・仕事を抱え込まずメンバーと協力しグループワークを円滑に進めることのできる 							
授業の概要及びテーマ	<p>企画を担当する新潟市と長岡市でインテリアショップ° [SWEET HOME STORE] を経営する株式会社ツールボックスと長岡市高畑の所在する長岡温泉の温泉旅館をデザインの手で再生し、街の活性化を牽引する存在となることを目標とし、信頼関係の構築と積極的なコミュニケーションを求められる、本気度の高い実践的なプロジェクト。依頼主との話し合いや調査分析の結果をもとにゴールを設定する。</p>							
実施スケジュール	<p>授業は毎週水曜日お昼休み～3限に 102 演習室で実施</p> <p>5月13日（土） 現地見学会 7月1日（土） 中間発表会 8月29日（火） 打ち合わせ 12月14日（木） 学内発表会 2月21日（水） 最終発表会</p>							
実施状況及び成果	<p>* 実施の写真を掲載ください</p> 							



所感、今後の展望など

このプロジェクトは、また来てみたいと思えるような旅館のコンセプトを構築することが目的であるため、成果の落としどころが見えないプロジェクトに学生たちはどう提案したら良いのか分からなくなり、脱落者が若干名出てしまった。

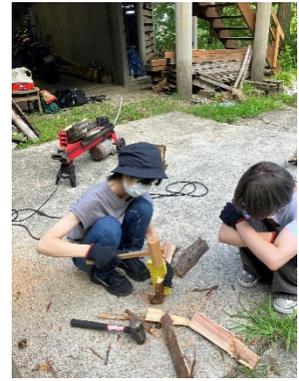
しかしながら、実際のデザインの現場では自分たちで落としどころを見つけなければならず、そのようなことは当たり前のことと言えるため、本気度の高いプロジェクトとして考えると学生たちにはいい経験をさせることができた。

また、学年や領域を超えたチームメンバーとの共創によって異なる視点を共有できたことも、このプロジェクトの成果であると言える。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習							
プロジェクト名	アウトドア商品開発プロジェクト							
期間（西暦）	2023年4月29日～2023年12月12日							
担当教員	主担当 境野広志							
参加学生数	2学年	3人	3学年	2人	4学年	人	その他	人
履修者数	5人							
達成目標	新たなライフスタイルの創造と外部組織との連携							
授業の概要及びテーマ	<p>アウトドアスポーツやキャンプは自然と触れ合いながら人生の価値を見出す新しいライフスタイルとして定着してきている。本プロジェクトではそれらの動向を踏まえ、新たなアウトドアの活動を創造するようなアイテム・ツールやサービスを提案する。</p> <p>今回は NPO 法人はねうまネットワークがコーディネーターとなり、工具メーカーの PLOW、国際自然環境アウトドア専門学校など地場の団体や女子美術大学と合同で実施する。</p>							
実施スケジュール	<p>4月 ガイダンス 見学会</p> <p>6月 合同組織のキックオフ</p> <p>6月 調査、体験会</p> <p>7月 店舗見学</p> <p>8月 方向性検討、一次案作成</p> <p>9月 中間発表 薪割り、焚火体験</p> <p>10月 検証・ブラッシュアップ</p> <p>12月 プレゼンテーション</p>							
実施状況及び成果	<p>薪割り体験</p> <p>*実施の写真を掲載ください</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>							

焚火体験や燃焼実験



提案内容



所感、今後の展望など

今回は急な連携申込を受けた形で、授業として取り込むには時期や体制などに若干支障があった。学生に対しては様々な体験やプロセスを用意したので問題は無いと思われるが、他学との交流などがリモートでしか出来なかった点が残念である。今後はこれらの点を見直し、より充実したテーマを検討したい。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習							
プロジェクト名	アーティスト インレジデンス アーティスト制作アシスト							
期間（西暦）	2023年5月14日～2024年1月20日							
担当教員	主担当 松本明彦							
参加学生数	2学年	2人	3学年	2人	4学年	2人	その他	人
履修者数	6人							
達成目標	作品制作のコンセプトの立て方や制作方法を身に付ける。							
授業の概要 及びテーマ	新潟市芸術創造村・国際青少年センターゆいぽーとで、アートインレジデンスがある。そのアーティストの制作のアシスト、お手伝いをする。 制作のアシスト、手伝いの過程で、作品制作のコンセプトメイキングや制作の仕方を滞在アーティストから学することができる。							
実施スケジュール	5, 6月 春期アーティストインレジデンス アーティスト手伝い 7, 8月 夏期アートインレジデンス アーティスト手伝い 9, 10, 11月 秋期アートインレジデンス アーティスト手伝い 12月 長岡造形大学博士課程学生アーティストインレジデンス手伝い 2024年1月 冬期アーティストインレジデンス アーティスト手伝い							
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載 ください	   							



台湾の詩人・煮雪的人（ジュウシュエ・ディレン）さんの日本語の詩の朗読
 クレア・ヒーラー&ショーン・コーデイロさんリサーチ、作品制作
 水田雅也さんワークショップ事前準備及び当日
 ローランド・ファークスさん作品制作、ワークショップ
 リ・イエンジェンさん作品制作
 片岡純也さん作品制作
 長岡造形大学博士課程飯塚純くんのワークショップ
 等のお手伝いを通じて、制作の進め方、地元の人達との交流などを学生は学ぶ
 ことができた。

所感、今後の展望な
 ど

初めての試みではあったが、アーティストインレジデンスアーティストには重
 宝され、度々手伝いの要請のお声がけを頂いた。ゆいぽーとさんの受け入れが
 可能であれば、来年度以降も続けたい。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習
プロジェクト名	DINOS CORPORATION 新商品開発プロジェクト
期 間 (西 暦)	2023年6月8日 ~ 2023年10月20日
担 当 教 員	主担当 金澤 孝和
参 加 学 生 数	2 学年 3 人 3 学年 11 人 4 学年 人 その他 人
履 修 者 数	14 人
達 成 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の現場での観察や調査を体験し、それを整理する力を養う。 ・顧客価値を意識した、シーズ整理、マーケティング、商品企画、開発、販売など実務での流れを経験する。
授 業 の 概 要 及 び テ ー マ	<p>https://www.dinos.co.jp/furniture/s/sangaku/</p> <p>ディノスオンラインショップで販売を前提として、商品開発・デザイン提案をする。ディレクションには株式会社 IKASAS DESIGN にお願ひし、授業では、実際の販売までに至る道筋を体系的に、臨場感持って経験してもらうことを計画している。製品化は新潟県内企業に協力をお願ひし、地域活性化目的の側面も併せ持つ。</p> 
実施スケジュール	<p>6月：現場見学・ガイダンス、講義</p> <p>7月：アイデア展開・発表、個別相談</p> <p>8月：中間発表、個別相談</p> <p>9月：プレプレゼン、個別相談</p> <p>10月：最終プレゼン</p>
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください	<p>https://dinos-corp.co.jp/news/2023/10/26130234.html</p> <p>https://www.nagaoka-id.ac.jp/topics/news/23876/</p> <p>商品化を目指した商業ベースでの産学連携授業は、市場（価格やターゲット）とのミスマッチ、構造や適切な素材選択、設計、品質など、乗り越えなければならぬハードルが多くあり、そのハードルこそが学びとなる。</p> <p>本プロジェクトでは、現役のマーチャンダイザー、製造、デザイナーの指導のもと、実際にお客様の手元に届くまでの流れを経験することで、学生のクリエイティビティと、社会に出てから企業に求められることのギャップを縮め、実践ですぐに活躍できるプロダクトデザイナー人材の育成を目指した。</p> <p>さらに地域とのつながりもテーマとして掲げ、新潟県内で生産・産出される素材の採用や、地元メーカーでの試作・生産が可能であることを前提に、天井突っ</p>

張り機能を取り入れた「衣類収納」もしくは「玄関収納」の企画を課題として取り組んだ。

14名が第1フェーズで取り組んだ自らのアイデアをプレゼンテーションし、ディノスでの商品化候補の企画として5つのデザイン案が選出された。



所感、今後の展望など

選出された5つの企画は、授業から離れて第2フェーズにおいて、IKASAS DESIGN、DINOS CORPORATION、新潟県内メーカーの協業により、販売に向けたデザインの最終調整や試作、プロモーション立案等を進めていく。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習	ボランティア実習	地域特別プロジェクト演習					
プロジェクト名	フェニックス花火ボランティア実習							
期間（西暦）	2023年5月16日～2023年8月4日							
担当教員	山本敦（主担当）・水川・金山・菅野・羽原・遠藤・福本・川和							
参加学生数	2学年	19人	3学年	7人	4学年	4人	その他	0人
履修者数	30人							
達成目標	フェニックス花火募金活動、長岡花火大会当日ボランティア活動に従事することを通して、フェニックス花火に関する学びを深め、奉仕活動が地域社会貢献として意義あることを理解できるようになる。							
授業の概要及びテーマ	長岡市の NPO 法人ネットワークフェニックスと提携するボランティア活動。長岡花火、フェニックス花火の歴史的経緯を知る。また、フェニックス花火募金活動、長岡花火大会当日ボランティア活動等に従事する。これらを通して、フェニックス花火に関する学びを深め、地域社会貢献としての奉仕活動の意義を理解する。							
実施スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・5月16日 ガイダンス ・6月7日 授業「都市論」内で、NPO 法人 ネットワークフェニックスの方の講義 ・7月にリバーサイド千秋で、6回のフェニックス花火募金活動に従事 ・7月26日 NPO 法人 ネットワークフェニックスの方を招いて、対面での長岡花火直前説明会 ・8月2・3日 長岡花火両日に、フェニックス花火観覧席でボランティア活動に従事 ・8月4日 フェニックス花火交流会（アオーレ長岡）に希望者のみ参加 							
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください。	<ul style="list-style-type: none"> ・6月7日 授業「都市論」（渡邊、Zoom 授業）の中で、NPO 法人 ネットワークフェニックスの土田氏による長岡花火、フェニックス花火についての解説 ・7月2日 アピタ長岡でのフェニックス花火募金活動①（全回11時～13時） ・7月8日 アピタ長岡でのフェニックス花火募金活動② ・7月9日 アピタ長岡でのフェニックス花火募金活動③ ・7月16日 アピタ長岡でのフェニックス花火募金活動④ ・7月22日 アピタ長岡でのフェニックス花火募金活動⑤ ・7月23日 アピタ長岡でのフェニックス花火募金活動⑥ ・7月26日 NPO 法人 ネットワークフェニックスの方々を招いて、対面での長岡花火直前説明会（於円形講義室） ・8月2・3日 長岡花火両日、フェニックス花火観覧席においてボランティア活動（ともに11時半～22時10分頃） ・学生の期末課題レポート提出 							

・これらの学修活動のほか、個別に、DVD『この空の花 長岡花火物語』（大林宣彦監督作品）鑑賞と、道の駅ながおか花火館、長岡戦災資料館見学を強く推奨した。



所感、今後の展望など

事前に長岡花火について学習するように指導したので、映画「この空の花」、長岡花火館、長岡市戦災資料館をそれぞれ選んで長岡花火が慰霊・復興の花火であることを学生は認識してボランティアに参加することができた。募金活動は、多くの市民が募金してくれることを通して、ボランティア参加への意義を感じたと思う。今年の長岡花火は、アルコールも会場で販売するコロナ以前と同様の開催となった。8/2・8/3は両日とも猛暑となり、教員は、学生の体調と安全面確保を重視して授業運営にあたった。両日とも体調を崩す学生は出ることなく安心した。「フェニックス花火募金活動、長岡花火大会当日ボランティア活動に従事することを通して、フェニックス花火に関する学びを深め、奉仕活動が地域社会貢献として意義あることを理解できるようになる」という目標は、学生のレポートを参照すれば、達成できたことが理解できる。昨年は国際ボランティア学生協会(IVUSA)の学生が参加しなかったが、今年は多くの学生が参加した。授業で参加している自分達とのボランティアへのポテンシャルの違いを感じた学生もいて、ボランティアへの意識も変わっていったと思う。今後も、NPOフェニックスと連携、交渉しながら学生の安全面を重視して授業運営していくことが望まれる。

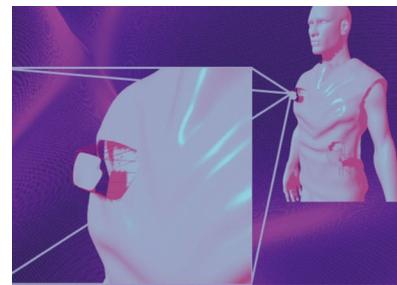
令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習
プロジェクト名	壊して気づくイノベーション
期 間 (西 暦)	2023 年 5 月 10 日 ~ 2024 年 1 月 16 日
担 当 教 員	主担当 森本康平 板垣順平
参 加 学 生 数	2 学年 人 3 学年 人 4 学年 人 その他 3 人
履 修 者 数	3 人
達 成 目 標	<p>第 1 段階：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の観察を行い、「破壊すべき対象」を見出し、その理由や目的を整理する。 ・テクノロジーや社会環境の将来動向に関するリサーチを行う。 <p>第 2 段階：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破壊すべき対象に関する「問い」を含む未来シナリオを検討する。 ・未来シナリオを共有するためのプロトタイプ制作を通して、シナリオに含まれる「問い」を共有し、他者とディスカッションを行う。 <p>そして、対象の本質や存在意義についての理解を深化させる。</p>
授 業 の 概 要 及 び テ ー マ	<p>日常生活のなかには様々なプロダクト、インフラ、景観、制度や仕組みなどがある。このプロジェクトでは、身の回りの環境において、不具合があるにもかかわらず、その状態が維持されているものやことなど、壊すべき対象を見つけだし、俯瞰的な視点でその対象の壊すべき理由や目的を見出す。</p> <p>令和 5 年度は「現在」を破壊することをテーマの一つとして設定し、SF プロトタイプ制作の手法に則り、現在の延長線上にない未来を提示し、プロトタイプ制作、展示を通して、議論の輪を広げることを目指す。プロトタイプはイラスト、プロダクト、映像、等、多様なフォーマットを選択できるものとし、成果物は冊子等の形態でアーカイブ化する予定である。</p> <p>なお、SF プロトタイプ制作を実施する際は、学部を対象とした地域共創演習との連携を予定している。</p>
実施スケジュール	<p>■プロジェクト A(破壊イノベ)</p> <p>5/10 ガイダンス</p> <p>7/25 テーマ検討</p> <p>9/20 定例ミーティング</p> <p>11/7 定例ミーティング</p> <p>12/12 定例ミーティング</p> <p>1/9 定例ミーティング</p> <p>1/16 合同成果発表会</p>

	<p>■プロジェクトB(SFプロトタイピング)</p> <p>DAY1 5/18(木)ガイダンス</p> <p>DAY2-4 5~6月シナリオ検討のためのインプット</p> <p>DAY5-7 6~9月シナリオ制作</p> <p>DAY8-10 10~11月アウトプット制作</p> <p>DAY12 12/17(日)プレゼンテーション/ディスカッション (公開)</p> <p>12月14日~22日 展示イベント@ミライエ5F</p> <p>1/16 合同成果発表会</p>
<p>実施状況及び成果</p> <p>*実施の写真を掲載ください</p>	<p>本年度はプロジェクトA (2名 ※当初3名でスタートしたが、休学のため9月以降は2名で実施) とプロジェクトB (1名) の2チーム体制で実施した。</p> <p>■プロジェクトA (破壊イノベ)</p> <p>はじめにチームメンバーは、それぞれの周囲で起こっている問題を調査し、その結果をアイデアシートにまとめた。そして、発見された多数の気づきを元に議論した結果、本学食堂のパンの売れ残りが多いという問題に取り組むことを決定した。</p> <p>パンの販売業者、食堂スタッフ、学内の関連部署へのヒヤリングを通して、現状の調査を実施。不人気のパンが売れ残ることから、逆にパンの種類を隠すパッケージを制作することで問題の解決を狙った。</p> <p>実証実験として、12月19日(火)から12月22日(金)までの期間、大学の食堂でオリジナルパッケージを使用したパンの販売テストを実施した。日ごとにパッケージのデザインやキャプションの情報量を変えながら、販売実績の変化を調査した。さらに、購入者へのアンケートやインタビューを通して、使用感や改善点について情報収集を行った。開催期間中はパンの売り切れるまでのスピードが早く、売れ残りの問題を解消できた。短期間のトライアルではあったが、一定の効果が見込まれることが示唆された。</p> <div data-bbox="461 1514 967 1890" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="991 1514 1262 1890" data-label="Image"> </div>



■プロジェクトB (SF プロトタイピング)



本プロジェクトは学部を対象とした地域共創演習との合同開催という形で実施した。大学院メンバーは、参加者として SF プロトタイピングに取り組むとともに、プログラム後半に実施するイベントのプロジェクトマネージャーとして、学部生、教員、事務職員、ミライエスタッフとの調整を担当した。

SF プロトタイピングの取り組みにおいては、「Bug Fashion」というタイトルの SF シナリオと CG を制作。将来のメタバース社会におけるファッションの価値について可能性を提示するとともに、デジタル空間におけるアバターと自己同一性についての問いを投げかけた。また、2023 年 12 月 13 日から 22 日にかけてミライエ 5F にて成果物の展示を行う。さらに、同 17 日にミライエステップにて公開ディスカッションを開催し、成果物の発信と市民との議論を行った。

所感、今後の展望など

■プロジェクトA (破壊イノベ)

本プロジェクトでは、大きなコストが発生する商品のクオリティ向上や商流の変更を行うのではなく、デザインを通して、ユーザーからの見え方や、商品に対する考え方を刷新することで問題解決に導いている。また、実践の中でユーザーからのフィードバックを迅速に取り入れてアイデアを改善し、効果を検証するプロセスを複数回行っている。このようなアプローチの結果、ユーザー同士を繋げるメッセージシステムという、当初想定しなかったアイデアの可能性も見出しており、実践ベースの取り組みとして高く評価できる。

■プロジェクトB (SFプロトタイピング)

現在のルールや価値観を強制的に破壊するプロセスとしてSFプロトタイピングという手法に着目した。製作されたSFストーリーは、起こり得る未来であるが、

あくまでフィクションであるという位置づけで認識される。その結果、ストーリーに内包される問いについて、多様な人と議論する際も、それぞれの知識量に左右されずフラットに議論することができ、センシティブなテーマでも本音で語ることができたように思う。本手法は現在の問題を即座に解決する手段とはならないが、長期的な視野で将来発生し得る問題を想像し、他者とともに考える手段としては有効であると考えている。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習
プロジェクト名	存在意義をデザインするパーパス・ブランディング&アクション
期 間 (西 暦)	2023 年 4 月 15 日 ~ 2024 年 1 月 18 日
担 当 教 員	主担当 板垣順平
参 加 学 生 数	2 学年 人 3 学年 人 4 学年 人 その他 2 人
履 修 者 数	2 人
達 成 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 段 階 : 外 部 団 体 を 見 つ け 出 し , プ ロ ジ ェ ク ト や 取 り 組 み 内 容 を 決 定 す る と と も に , パ ー パ ス ・ ブ ラ ン デ ィ ン グ に よ っ て 存 在 意 義 や ア ウ ト プ ッ ト を 明 確 に す る 。 ・ 第 2 段 階 : 第 1 段 階 の 結 果 を も と に , 外 部 団 体 と と も に プ ロ ジ ェ ク ト や 取 り 組 み を 実 行 し て , パ ー パ ス ・ ブ ラ ン デ ィ ン グ の 効 果 に つ い て 検 証 す る 。
授 業 の 概 要 及 び テ ー マ	<p>SDGs の 達 成 や DX の 推 進 の よう に , 「 意 識 し な け れ ば な ら な い こ と 」 や 「 実 施 し な け れ ば な ら な い こ と 」 が 目 的 や 前 提 と な っ た 取 り 組 み が 多 く あ る 昨 今 の 社 会 に お い て , パ ー パ ス ・ ブ ラ ン デ ィ ン グ と い う 考 え 方 が 注 目 を 集 め て い る 。</p> <p>パーパス・ブランディングは、個人と組織の両方の存在意義を明確にするとともに、それぞれの接点をうまく重ね合わせることで、目的や前提に囚われない成果やアウトプットの創出につながるほか、個人や組織のやりがいや誇りの醸成にも繋がることを期待されている。</p> <p>このプロジェクトでは、行政や企業、民間団体などの外部団体等との連携を図りながら、パーパス・ブランディングをもとにしたアクションを実施し、その効果を検証する。</p>
実 施 ス ケ ジ ュ ー ル	<p>4 月 授 業 ガ イ ダ ン ス</p> <p>6 月 - 9 月 プ ロ ジ ェ ク ト 内 容 の 企 画 ・ 実 施 , 情 報 共 有</p> <p>10 月 情 報 共 有</p> <p>12 月 プ ロ ジ ェ ク ト の 実 施 ・ 検 証 , 情 報 共 有</p> <p>1 月 成 果 の ま と め , 発 表</p>
実 施 状 況 及 び 成 果 * 実 施 の 写 真 を 掲 載 ぐ だ さ い	<p>当 該 プ ロ ジ ェ ク ト で は , 履 修 学 生 一 人 一 人 が 得 意 と す る こ と や 専 門 性 を 生 か す と と も に , 自 身 の 理 想 や こ う あ り た い , こ う し た い と い う 思 い を パ ー パ ス (存 在 意 義 や 理 由) と し て 抽 出 し , そ れ ら と 地 域 課 題 や 地 域 の ニ ー ズ を 接 続 す る た め の 活 動 を 実 施 し ま し た 。 今 年 度 は , 2 名 の 大 学 院 生 が 当 該 プ ロ ジ ェ ク ト を 履 修 し , 自 己 内 省 に よ る 自 己 実 現 の 向 上 の 場 づ く り や 地 域 の 魅 力 を 認 識 す る た め の 展 示 と ワ ー ク シ ョ ッ プ の 実 施 な ど , そ れ ぞ れ の 修 士 研 究 の テ ー マ と も 関 連 付 け な が ら , 外 部 の 組 織 や 団 体 な ど と 関 わ り な が ら プ ロ ジ ェ ク ト を 企 画 , 実 施 し た 。 今 回 の 演 習 を 通 じ て , 一 人 で プ ロ ジ ェ ク ト を 企 画 , 実 施 す る の で は な く , 自 身 の パ ー パ ス を 他 者 に 伝 え , 共 感 を 得 る こ と (= こ の 指 止 ま れ) を 通 し て プ ロ ジ ェ ク ト を 企 画 , 実 施 す る こ と で プ ロ ジ ェ ク ト の レ バ レ ッ ジ に つ な が る こ と や , 持 続 的 な プ ロ ジ ェ ク ト の 運 用 方 法 な ど を 提 示 す る こ と が で き た 。</p>

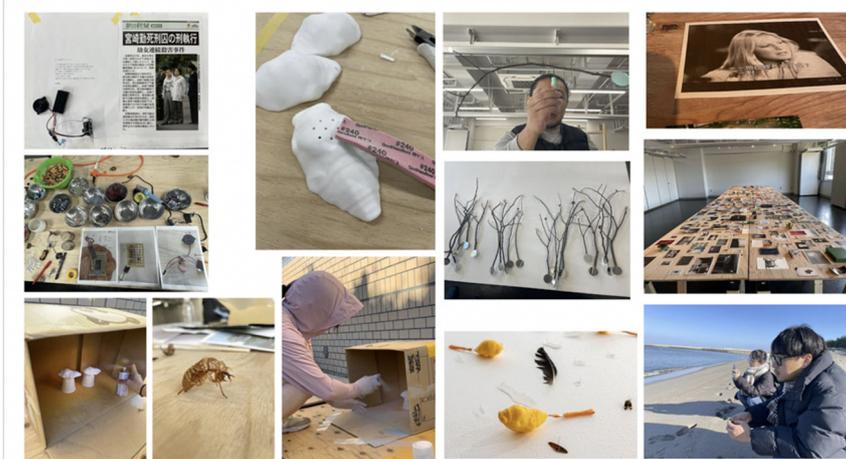
特に、今年度の演習では履修者それぞれがプロジェクトを進めるなかで、当初は想定していなかった活動にも展開され、それらの活動は演習後も継続されることから、今後の展開やさらなる成果に期待する。



所感、今後の展望など

今年度の当該プロジェクトでは、昨年度に引き続き、シラバスのような具体的な実施スケジュールやタスクなどを取って設定せずに、大学院生一人ひとりが主体となってプロジェクトに取り組むような実施体制としたことで、当初は想定していなかった多様なプロジェクトに展開できた。特に、各自でプロジェクトを進めながら情報共有や進捗確認を履修者同士で定期的実施したことから、お互いに実施内容に対するフィードバックや議論などが活発に行われることにもつながったと考える。

令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習
プロジェクト名	アーティストインレジデンスアーティスト制作アシスト
期間 (西暦)	2023年5月14日 ~ 2024年1月20日
担当教員	主担当 松本明彦
参加学生数	2学年 人 3学年 人 4学年 人 その他 修士2人
履修者数	2人
達成目標	作品制作のコンセプトの立て方や制作方法を身に付ける。
授業の概要 及びテーマ	新潟市芸術創造村・国際青少年センターゆいぽーとで、アートインレジデンスがある。そのアーティストの制作のアシスト、お手伝いをする。 制作のアシスト、手伝いの過程で、作品制作のコンセプトメイキングや制作の仕方を滞在アーティストから学することができる。
実施スケジュール	5, 6月 春期アーティストインレジデンス アーティスト手伝い 7, 8月 夏期アートインレジデンス アーティスト手伝い 9, 10, 11月 秋期アートインレジデンス アーティスト手伝い 12月 長岡造形大学博士課程学生アーティストインレジデンス手伝い 2024年1月 冬期アーティストインレジデンス アーティスト手伝い
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください	台湾の詩人・煮雪的人 (ジュウシュエ・ディレン) さんの日本語の詩の朗読 クレア・ヒーラー&ショーン・コーデイロさんリサーチ、作品制作 水田雅也さんワークショップ事前準備及び当日 ローランド・ファークスさん作品制作、ワークショップ リ・イエンジェンさん作品制作 片岡純也さん作品制作 長岡造形大学博士課程飯塚純くんのワークショップ 等のお手伝いを通じて、制作の進め方、地元の人達との交流などを学生は学ことができた。 

所感、今後の展望など	初めての試みではあったが、アーティストインレジデンスアーティストには重宝され、度々手伝いの要請のお声がけを頂いた。ゆいぽーとさんの受け入れが可能であれば、来年度以降も続けたい。
------------	--

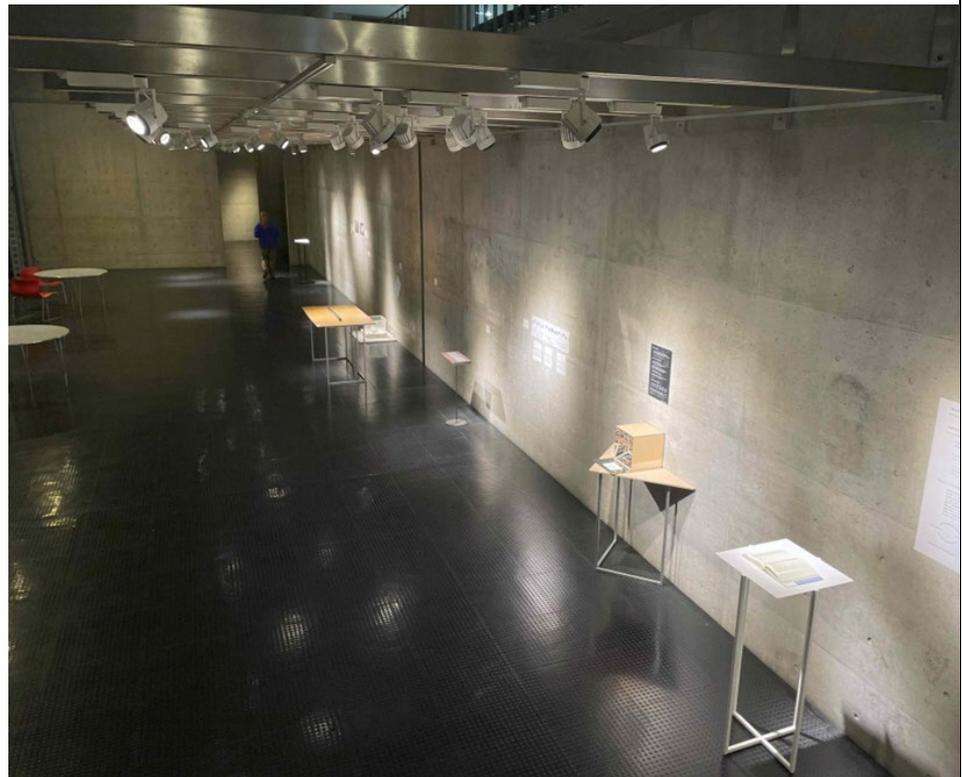
令和 5(2023)年度 地域協創演習・ボランティア実習・地域特別プロジェクト演習
実施プロジェクト報告書

科 目	地域協創演習 ボランティア実習 地域特別プロジェクト演習 I / 特別プロジェクト研究演習							
プロジェクト名	Arts-Based Research の実践							
期 間 (西 暦)	2023 年 9 月 28 日 ~ 2024 年 1 月 16 日							
担 当 教 員	主担当 小松佳代子 岡谷敦魚							
参 加 学 生 数	2 学年	人	3 学年	人	4 学年	人	その他	8 人
履 修 者 数	8 人							
達 成 目 標	答えのない実践のただ中で思考し、非知のものから知を立ち上げていくこと							
授 業 の 概 要 及 び テ ー マ	<p>科学的研究とは異なり、芸術制作に根拠づけられた研究のあり方を創造する。実践の中で探究を深めることによって知が生成するような、実践と研究との往還をすることを目指す。成果物よりも研究のプロセスにおいて自らの実践を省察することを重視する。</p> <p>ウォーキングメソドロジーを問い直すような実践を目指す。</p>							
実施スケジュール	<p>9 月 レクチャーと議論</p> <p>10 月 歩く実践 1 それぞれの実践、実践の振り返りと議論</p> <p>11 月 歩く実践 2 それぞれの実践、実践の共有と議論</p> <p>12 月 制作物についての議論、制作</p> <p>1 月 展示計画と最終発表について</p>							
実施状況及び成果 *実施の写真を掲載ください	<p>今年度はまず「歩くとは何か?」という問いを立て、それぞれ歩くことについて思考することから始めた。ガイダンスでは歩くことと ABR との関係について論じている内外の先行研究を紹介した。</p> <p>歩く実践では、それぞれが考えた歩き方で歩いてみた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氷を蹴りながら歩く ・蟻の後について歩く ・本を読みながら歩く ・四つん這いで歩く ・亀の歩いた軌跡を見ながら歩く ・透明人間になって歩く ・周囲より高いところを歩く ・会話をせず行き先も決めず集団で歩く ・石を拾いながら歩く (気に入った石は必ず一つ。別の石を拾った場合は選択) 							



歩いた実践で考えたことを振り返りつつ、歩くとは何かということを議論する。その思考の過程をどう表現するかということについて全員で議論を重ねつつ、最終発表へ向けてそれぞれが準備を行った。

議論と実践と制作と行き来しつつ 2024 年 1 月 16 日の最終発表に向けて展示を行った。



最終発表会では、それぞれが「歩く≡〇〇」というキャプションを伴った展示物の前で自らの思考のプロセスを発表した。

- 歩くこと ≡ ふりまわされること
- 歩くこと ≡ 秩序に至る混沌 混沌に至る秩序
- 歩くこと ≡ 生きること ≡ 作ること
- 歩くこと ≡ 考えること
- 歩くこと ≡ 退屈から逃れるための退屈なこと
- 歩くこと ≡ 移動
- 歩くこと ≡ 生活
- 歩くこと ≡ 積み重ねること
- 歩くこと ≡ アート



所感、今後の展望など

今回は8人+自主参加者1名と人数が多く、毎回それぞれの発表をするだけで時間がかかってしまった。「歩くこととは何か」という漠然とした課題に戸惑う院生もいたが、普段の制作や研究とは異なる問いの立て方を経験するという意味で、実践に基づく研究としての目標はある程度達成できたと考えている。ただ、このやり方に合う院生と合わない院生がいるということもわかったので、今後は、ガイダンス時にしっかりとこのPBLの特徴を説明して理解を促してから選択してもらうようにする必要を感じている。